

本川根中学校 春田浩奈さん（小長井） インタビュー 第63回 日本学生科学賞 入選1位

日本学生科学賞は、読売新聞が主催している日本で最も伝統のある中学生と高校生のための科学自由研究コンクールです。毎年7万点近くの応募作品があり、全国の地方審査会で選ばれた優秀作品200点が中央審査会へと進みます。そこからさらに20点が最終審査へと進み、審査員による直接の聞き取りによって審査が行われるのですが、今回はその最終審査で「入選1位」に選んでもうことができました。

『どうして研究を発表したのですか？』

今回は「水面の1円玉とキャップの位置」をテーマに理科研究を行いました。コップに水を満たした時、盛り上がった水面では1円玉はコップの縁に、キャップは中央に浮かびます。逆に水を減らし、へこんだ水面にすると位置が逆転するという現象について研究し、発表しました。

研究のきっかけは本川根中学校で行っている放課後学習「せせらぎタイム」での理科の課題でした。最初に現象を見せてもらい、昨年の3学期に全校生徒で位置取りの理由を考えました。4つの仮説が立てられましたが、納得できる理由は私たちにも先生にもわかりませんでした。そこで、今年の夏休みに4つの仮説を詳しく検証してみました。その結果、物体の位置取りは次の3つの関係で決まることが分かりました。水面にできる斜面の存在と「浮力」と「重力」です。「なぜか」が分かった時はすぐくうれしかったし、「科

学って面白い」と感じました。

『以前お聞きになった研究は？』

実は、2年生になるまで科学研究にあまり興味はありませんでした。しかし、去年の夏に「カルメ焼きがうまくできる条件」についての研究を行ったことで科学の面白さにふれ、興味を持つようになりました。「答えがないところを学び、自分で答えを創つていくことに研究のロマンを感じました。

『審査会はどうでしたか？』

全国の審査会では、私と同年代の人たちの様々な研究を知り、興味を惹かれる発表を聴いて改めて科学研究の素晴らしさを感じました。また、全国から集まつた生徒同士の交流もとても刺激的でした。特に心に残ったのは、広島の高校生のグループが私の発表を見に来てくれたことです。高校生たちは私のテーマ

に関連する研究を進めていて、お互いの研究内容について話ができたことはすごくうれしかったし、とても刺激になりました。

『最終審査での

ショットや質疑応

答、全国の人たち

との交流、どれも

貴重な経験でし

た。この経験を今

後も活動の中で

十分に生かして

いきたいと思

います。

『今回の感想を教えて下さい』

今回の研究は、本川根中学校のみんなで仮説を立て、みんなで考えたことが力となつて入選できたと思っています。私たちの身の回りには、実際に多くの発見や不思議な「問い合わせ」があります。それをみんなで追究していくことは、本当に楽しいし、やりがいを感じることです。今回の研究を通して、研究の面白さと同時に、みんなで知恵を出し合い、答えを創っていくことの素晴らしさも学ばせていました。本川根中学校のみんなに深く感謝しています。



●研究発表と記念の盾は学校で展示されています

「ふるさとのぬくもりを伝えたい」 第21回 昔ばなし語り部まつり



三味線の披露では、春夏秋冬メドレーとして「さくら・ほたる・うさぎ・雪」の4曲と、長唄2曲が演奏されました。



1月18日（土）、川根本町文化会館において中川根語り部の会「話楽座」が「第21回 昔ばなし語り部まつり」を開催。およそ170人ほどの方が来場し、その語りに耳を傾けました。

今年は話楽座のメンバー5人による語りに加え、同団体の講師である「岡尾智津子」さんによる特別講演が行われたほか、島田市を中心に活動している三味線奏者「吉住小友也」さんと話楽座メンバーによる三味線演奏と長唄の披露が行われました。

話楽座会長の澤井初美さんはあいさつの中で、「皆さんのおかげで活動を続けていくことができている。去年から本川根中学校の春田さんがグループの練習に来てくれるようになった。この会をつないでいってくれることを期待したい」と話しました。

